

# TENOHASI

てのはし

地球と隣のはっぴい空間・池袋

会報誌第33号 2016年4月1日発行



下町風情あふれる要町の一角。ここにSWOC・ゆうりんクリニックを創ります。

## Social Worker's Office/ゆうりんClinic開設記念号

TENOHASIの理念	2	追悼 ヤマキヨさん	10
巻頭言 もう死なせない	3	TENOHASIと歩む	13
「ゆうりんクリニック」	6	寄付御礼	151
始まります!		活動紹介・ご支援のお願い	6

# TENOHASIの理念

2004年春

## 1. サポート

TENOHASI=地球と隣のはっぴい空間池袋は、「ホームレス」を含めた生活に困った方が、孤立せずに信頼関係を生きていけることのサポートを使命とします。

「ホームレス」とは、その方がその時にホームレス状態にあるという意味で使います。ただし、「ホームレス」状態に至るまで、また「ホームレス」状態での社会の関係性の維持を大切にします。

### 1、サポートの仕方

緊急一時支援の他、関係性を大事に当事者とよく話し合い互いの理解の上で状況や希望に応じた、私たちができる必要なサポートを丁寧に行います。

### 1、安心の空間

社会的地位、経済状況、年齢、性別、健康状態などの条件に関わらず、人々が地域で安心して生活できる空間作りを目指します。

### 1、つながる

置かれた立場や状況、境遇など様々なちがいを当たり前のこととしてつながることを目指します。そのために現状を共有するための情報発信をしていきます。

### 1、大切にしたいこと

ゆっくりなこと、非効率で無駄だと思えることを大切にします。

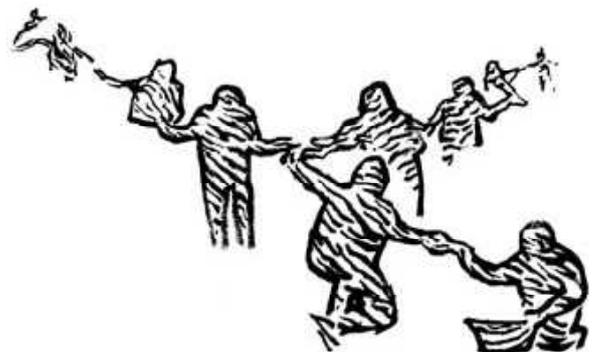
素朴なこと、個人の個性や特殊性ということ大切にします。

### 1、池袋・地域

池袋という地域性を把握した上で、地域に根付いた、時と場に合った活動をこころがけます。



by GEOFF READ



巻頭言

# もう、死なせない。

## ソーシャルワーカーズオフィス／クリニック始動！！

ちようど10年前、中村あず  
さん（当時のTENOHAS  
I代表・現在世界の医療団）が  
TENOHASIブログに投稿  
した内容です。長文ですが、ぜ  
ひお読み下さい。

<http://tenohasi.exblog.jp/998049>

タイトル…何が起こっている  
の？

日付…2006年2月28日

本文…先日の話です。TENOH  
ASIの活動日ではないのですが  
たまたまいつもの公園に立寄った  
ところたくさんの方にあの人どう  
にかしてほしいという話があり、  
どんな様子か伺うと、その方（A  
さん50代男性）は、南池袋公園  
の片隅に座り込み、体を震わせて  
いらつしやいました。薄いジャージ  
と下にシャツ一枚着ている程度  
で、全身冷え切っている様子でし  
た。手足はむくみ、パンパンで、氷

のように冷たかったです。

何を聞いてもご本人がほとんど  
聞く程度の返事をされるため、状  
況がよくわからなかったのです  
が、公園の住人の方のお話によ  
ると、この方は3日くらいここに座  
り込んだままで、雨が降ってもそ  
のまま座ったままだった、という  
ことでした。誰かがその日配って  
たおにぎりを差し上げたようで  
すが、少しだけ食べたようであ  
った。

話ができなかったのは、ずっと  
食べていない、息がとれていな  
い、身体が冷え切っている、という  
衰弱しきった状況からだったので  
しょうか。

ちよつとずつお答えいただいた  
範囲でわかったことは、お名前と  
年齢、そして状態として、動けな  
いということ、頭が痛いというこ  
と、気持ちが悪い、ということ、2  
週間何も食べていなかったという  
こと、でした。

救急車を呼んだほうがいいです  
か、と伺ったら、頷かれたため、救  
急車を呼びました。

ぶるぶると全身震わせ、表情も  
こわばり、どんな質問もうなずい  
たり、ときどき少しの単語を口に  
されるだけの得ず、救急隊も  
苦戦していましたが、I病院に運  
ばれることとなりました。

救急隊の方の何人かは、質問  
に答えられないことのため息をつ  
いたりどうして返事しないの？  
と笑ったりしながら「状況がわか  
らないのに救急車を呼ばれても困  
る」と言ったり、「ただおなかがあ  
っているだけではないか。それ  
くらいで救急車を呼ばれても困  
る」と言ったりしていました。「2  
週間食べていない」という話には  
「そんなことあるはずがない。」と  
あざ笑って否定していました。

病院に着いたら、体温を測ろう  
としましたが、体が冷たく、体温  
を測ることができませんでした。

今回は診察室には入れてもらえ  
なかったのですが、どんな対応をされ  
たのかわからなかったのですが、  
状況がよくわからなから、「と  
「頭が痛いと言っているらしいの  
で」とりあえず「痛み止めと胃薬  
を出されて、帰されてしまいました  
た。」

耳から採血をしていました。（こ  
れも大いなる疑問点のようです）  
救急隊の方にははよろしく、と  
言われてしまい、全身震わせてい  
て、まともに歩けないAさんの肩  
を支えてとりあえず病院を後に  
しましたが、もうすっかりあたり  
は暗くなつていて、気温も下がって  
しまっていましたし、土曜日の晩  
でしたので、区役所があくまで  
まだ2日ありましたので、どうし  
たらよいのかわからず、途方にく  
れてしまい、悔しさと戸惑いから  
涙が止まらなくなりました。

見ると、Aさんの目からも涙が  
流れていました。  
泣いている場合ではないな、とわ  
れに返り、とりあえず暖をとろう

と思い、ゆっくりいることができ  
そうな喫茶店に向かいました。

その途中であったかい缶ジュース  
を飲んでいただき、喫茶店に入  
り、暖かい紅茶とサンドイッチをA  
さんに食べていただいたり、氷の  
ように冷たくなった手をマッサ  
ジしたりしていました。手はだい  
ぶぬるくなりました。

そうして暖まってもらっているう  
ちに、TENOHASIスタッフや他  
団体の方に電話させていただきました  
談させていただきました。

IMAシエルター（当時、唯一使  
用可能だった民間シエルター）を利  
用させてもらい、月曜日に福祉を  
通して病院の外來にかかることが  
一番よいかなど思っていたので  
が、IMAに連絡がとれませんでした。

いままさん（仲間の支援者）が駆  
けつけてくださって、「ご本人とも  
相談した結果、近くのカプセルホ  
テルにとまっていたらいいこと  
が、ということになりました。

そしてこのとき、Suiさんが喫  
茶店まであたたかい服を届けてく  
れました。

いままさんと二人でAさんのお体  
を支えながら近くのカプセルホテ  
ルまで向かいましたが、近くまで

来たときにはAさんの体の震えは  
強くなり、呼吸も荒くなり、涙を  
ぽろぽろ流されて足取りもより  
ふらふらしてしまっていたため、  
やっぱり救急車をまた呼んだほう  
がいいね、ということになりました。  
た。

こちらの救急車にはいままさんが  
付き添ってください、わたしは帰  
らせていただいたのですが、聞い  
た限りでは、親切に対応してくだ  
さったようです。

体温が低いことを救急隊の方  
も、受け入れ先となったY病院の  
お医者さん、看護師さんも「危な  
い状態だった」と言っていたそう  
です。

あれだけ暖まってもらったのに  
Y病院に着いた時点で体温が32  
℃しかなかったそうです。入院と  
なり、暖まって落ち着いたら検査  
をしましょう、ということになり  
ました。

驚いたのは、お体を支えて歩いて  
いたとき、Aさんの肩やわきの  
下、胸などに触れたときに、薄い  
ジャージの下の肌の体温がひんや  
り冷たいのがわかったことです。

どんなに気温が低く、指先が氷の  
ように冷たくなっても、肩や胸の

辺りまで冷たくなってしまったこと  
は初めてで、その冷たさを感じた  
ときになんとなくぞつとしまし  
た。

悔しいともつらいとも口にし  
ることができずにぼろぼろと涙を  
こぼしていたAさんのお気持ちは  
計り知れない、と思いました。

あんなに薄着で、小さい手提げ  
しか持っていないAさんはいったい  
どんな背景の方だったのでしょうか。

そして、入院して、約1週間……

ひたすら眠り続けていたAさん  
は、お亡くなりになりました。

無念でなりません。こころから、  
ご冥福をお祈りします。

病院には病院の事情があり、救  
急隊には救急隊の事情はあるで  
しょう。

事実、病院から帰されてしまう  
衰弱した「ホームレス」状態の方に  
対し何もできないというこころの  
葛藤を救急隊の方に打ち明けら  
れたこともあります。

Aさんの死を静かに見守りたい  
気持ちがあるのですが、あえて

こんな書き込みをしたのは、誰か  
を糾弾することが目的なのでは  
なく、どうしたら、こんなことが  
起こらずにすむのか、問題提起を  
したいと思ったからです。

どうか、今後このようなことが起  
こらないことを強く望みます。

10年前、TENOHASI  
は孤立していて、無力でした。  
炊き出し夜回りを続けるだけで  
精一杯。わずかな無給ボランティア  
が、助けを求めて走り回っ  
ただけでした。

しかし、今なら決してAさん  
を死なせません。

「ハウジングファースト東京  
プロジェクト」に集うたくさん  
の連携団体が有ります。

そして、この会報を読んで、  
支援して下さる皆さんがいます。  
この頃の会報誌発送部数は10  
0部以下。今は1200部です。

4月1日、念願のSWOC  
ソーシャルワーカーズオフィス  
／クリニックが始まります。

今、Aさんに出会ったらどう  
するか、次のページでシミュレ  
ーションしてみます。

## SWOC開設後の シミュレーション

日付…2016年4月某日  
タイトル…Aさん支援報告

本文…「TENOHASI」の活動日ではないのですがたまにたまたまの公園に立寄ったところたくさんの方にあの人どうにかしてほしいという話があり、どんな様子か何うと、その方(Aさん50代男性)は、公園の片隅に座り込み、体を震わせていらつしやいました。薄いジャージと下にシャツ一枚着ている程度で、全身冷え切っている様子でした。手足はむくみ、パンパンで、氷のように冷たかったです。

何を聞いてもご本人がほとんど頷く程度の返事をされるため、状況がよくわからなかったのですが、公園の住人の方のお話によると、この方は3日くらいここに座り込んだままで、雨が降ってもそのまま座ったままだった、ということでした。誰かがその日配っていたおにぎりを差

し上げたようですが、少しだけ食べたようでした。

話ができなかったのは、ずっと食べていない、休息がとれていない、身体が冷え切っている、という衰弱しきった状況からだと判断できたので、すぐにタクシーを呼んで、要町に開設したばかりの「ゆうりんクリニック」にお連れしました。

あらかじめ連絡を入れていたので、クリニックではすぐに内科のA医師が診察し、〇〇症による症状であると判断され、必要な処置と処方を受けられました。

そして、「SWOC」ソーシャルワーカーのBさんが、シエルター(〇〇ハウス〇号室)にご案内し、その日は暖かいものを食べていただき、休んでいただきました。

翌日、SWOCソーシャルワーカーのCさんが訪問して、少しずつ、お名前と年齢、そしてここに至るまでの経緯、これからどういう生活をされたいかというこの聞き取りを行いました

た。

〇〇区で生活保護申請をされることを希望されたので、その翌日、ソーシャルワーカーDさんと共に申請し、2週間後、保護開始が決定されました。

聞き取りの中で精神障がいでの入院歴もあるとわかったので2日後、ゆうりんクリニックの精神科・E医師の診察を受けました。必要な薬の処方を受け、調子が悪くなったら入院設備のあるY病院への入院も考えることになりました。

また、家については、当分今のシエルターで過ごされたいと言ったので、シエルター設置者である「つくろい東京ファンド」と、〇〇ハウス〇号室の定期借家契約(4ヶ月)を結ばれました。

その後は、「ゆうりんクリニック」に定期的に通いながら、週1回は「訪問看護センターKAZOC」の訪問看護を受けて、体調管理と生活全体の相談も受けています。

最近の外に出歩けるようにな

り、日中は「べてぶくろ」や「世界の医療団」が行う料理教室などの日中活動にも顔を出されるようになりました。「友達ができたよ」と喜ばれています。

ソーシャルワーカーも定期的な訪問して、これからの生活をどう作っていくかを一緒に考えました。そして、定期借家契約が切れる4ヶ月後、近くに契約した新しいアパートに転宅されました。

これからは、通院と訪問看護を受けながら、障がい認定を受けて手帳を取りたい、そうした障がい者就労枠での就労にも挑戦したいと希望を語られました。(S)

4月から開設するSWOCIIソーシャルワーカーズオフィス/クリニックは、ソーシャルワーカーが自立したオフィスを構え、ソーシャルワーカーを支援するために開設された医療機関が併設されているという、おそらく日本で初めて試みです。

そんな機関の経営が今の日本で成り立つのか?

まだ不安だらけですが、是非ともご支援をお願いします。

# 「ゆうりんクリニック」始まります

## 2016.4.1から

### 院長 西岡誠さんインタビュー

巻頭言にある通り、念願のS  
WOC…ソーシャルワーカーズオ  
フィス／クリニックを4月から開  
設することになりました。その  
医療セクションであるクリニック  
の名前は「ゆうりんクリニック」  
と決まりました。名付けたのは、  
院長を引き受けてくれた西岡誠  
医師（内科）。西岡さんが最初に

TENOHASIの医療相談に参  
加されたとき、ラグビー選手の  
ようなガツシリしたガタイと「真  
冬なのに短パンTシャツ」とい  
う服装に驚いた記憶があります。  
インタビューでは、まずその名前  
に込めた思いから聞きました。

ゆうりんクリニックという名前  
の由来は

私がいつも持ち歩いている「論  
語」に「徳孤ならず 必ず鄰有  
り（有鄰）」という言葉があつてそ  
こから取りました。もともとは  
「徳のある人は孤立しない、必ず  
仲間が集まってくる」という意味  
です。みんなのため役立つこと  
をしていれば、必ず同じ志の人  
が集まってくると私は解釈して  
います。また「私たちがあなたの

良い隣人でありたい、困っている  
あなたの隣に居たい」との想いも  
込めています。

聖書には「善きサマリア人のた  
とえ」という話もあります。「隣  
人への愛」を説くイエスに「隣人  
とはだれか」と尋ねた人に対し  
て、イエスは「強盗に襲われてケ  
ガをして倒れている人がいた。  
自分の高い人たちは助けず通り  
過ぎた。人々から差別されてい  
たサマリア人は親身になって助  
けた、そのケガ人の隣人と言え  
るのは誰か」と反問した、とい  
う話です。ここで言う「隣人」が私  
のイメージする隣人です。ただ、  
「サマリア」というとはつきりキ  
リスト教になるし、他でもその  
名前をつけているところがあり  
ますからね。

「あなたの隣人がここにいます  
よ」という意味ですね。

はい。ここで言う「隣人」とは、  
ただ地理的に近くににいる人では  
なくて、「困ったときに寄り添っ  
て助けあう関係にある人」だと  
思っています。「困っている人」と  
「私たち」の関係は「よき隣人」で  
ありたいと思うんです。

「仲間」という言葉には、個人  
的にちよつと違和感があります。  
「支援者と被支援者」という上下  
関係を含んだ言葉も嫌だ。「隣  
人」という距離がしつくり来ま  
す。

森川すいめいさんが「自殺の  
少ない村」について研究していま  
す。その村では、困った人がいた  
ら色んな人がホイホイ助けに来  
てくれる。でも助けられた人は  
お返しに気を使わなくていいと  
いいます。そんなこち良い関係  
なんだそうです。ガチガチにつな  
がった「仲間」ではない「ゆるい関  
係」。そういうのがいいですね。

いつ池袋に来られたんでしたっ  
け？  
初めてTENOHASIの炊き  
出しに来たのは2013年の12  
月です。

行ってみたら、あまりにいろい  
ろな人がいて驚きました。ご飯  
配って、鍼灸マッサージやって、ほ  
つと友の会（お茶会）やって、イス  
ラム教の人たちがカレー配った  
りしてる。つい最近まで野宿して  
いたような方も支援する側に  
いる。



渋谷で医療相談中

不思議でした。ガチガチの闘争団体じゃない、慈善事業でもない。いったい何なんだ？と。

その頃、大阪の仕事が一段落したので森川すいめいさん（TENOHASI理事・精神科医）に「勤務先を探している」と話したんです。そしたら「ぜひ私のいる病院に」と誘われました。「精神科病院だけど、内科の患者さんがうじゃうじゃいます」と。そこでメールで「勤務条件を教えてください」と問い合わせたら、その返事が「西岡さん、町を作りましょう。自殺者の少ない生きや

すい町を池袋に作りましょう、やりましょう」でした。びっくりしました。「こいつ何言ってるだ？」と思いましたが。給料とかの条件を聞いたのにそれは何も書いてない。四十を超えた大人の話じゃない。すいめいさんはド

ラッカーが好きでマネジメントとか言ってますが、全くビジネスの人ではないですね。でもとりあえず「がんばります」と返信して東京に来たんです。

それで来る方も来る方ですね（笑）。そして今度はクリニックの院長になられるわけですが、どうしてクリニックを作ろうと思っ

たんですか。クリニックの必要性は以前から感じていました。昔は、ホームレスの人を救急で病院につれて行っても「何でこんなやつを連れてきたんだ」と怒鳴られ、まともな医療を受けられないことがしばしばありました。今はちょっとまともになりましたが、障がいがあつて自分のことをうまく話せない人や、親しい人には話せ

られないから適切な医療を受けられない。そんな人を親身に診てくれたり、生活困窮者の状況をきちんと理解して診てくれる病院は、残念ながら多くはないんです。支援をやっていく中で気が付いたことがもう一つあります。路上生活者は一様に健康状態が悪いんです。「自立生活サポートセンターもやい」の「こもればカフェ」に亡くなった当事者の方の写真が飾ってあるけれど、見るとみんな若くて、50〜60代で亡くなっている。これは成人に達した江戸時代の人の平均余命です。現代日本で江戸時代程度の寿命しかない人たちがいる。それも、飢死や凍死ではないんです。路上生活で身体を蝕まれて、検査も治療も受けられないから悪化して、高血圧やガンや糖尿などの病気で死んでいきます。

でも少ない。既存の支援活動の中で本当の病気のケアがスポンと抜けています。対症もやるが身体の根本のニーズにもきちんと対応する支援が必要なんです。さらに気がついたことがあつて。路上生活者で支援が難しい人がたくさんいますが、そんな人を支援する中心は医者じゃなくてソーシャルワーカーなんです。ワーカーというのはTENOHASIの小川さんや世界の医療団の中村さんたちだけじゃなくて、毎週の夜回りでおにぎりを渡す当事者スタッフとか、直接アプローチして話しかける人、現場に出る人。それをサポートするクリニックでないといけません。だから、SWOCの中心理念は「資格のある人ではなくて、関係を結んでいる人が主力」です。それを支える「ソーシャルワーカー」に使い勝手のいいクリニックにしたいと思っています。テレビで「赤ヒゲみたいな名医」のドキュメンタリをやっていました。テレビってああいうの好きですよ。でも、そういう名医はいらないんです。気難しいけど



手前が精神科・奥が内科診察室

腕は確か、というのじゃいけない。使いやすい、モノが言いやすい、そんな医者、クリニックでないといけません。ワーカーやボランティアが「この医者に書類書かそう」っていうかんで、適当に使ってくればOK。

今は病院と患者との間で板挟みになっているワーカーが多い。そんなワーカーが「ちょっとここで診てもらおうよ」「ここでコーヒー飲んできな」という感じで使

ってもらえればいい。クリニックといいながらソーシャルワーカーの支援機関なんです。

池袋に来て、「人が健康になるのに、医者いらんじやん」と思いました。路上の人が生活相談に来て、そこでワーカーやボランティアと関係ができて、医者が診る、それが一番健康になるんです。路上の人同士で「お前、ちょっと診てもらったらええんちゃう？」とか言ってくるのもいい。

そんなものはよそでもある、という批判もあります。「自治体によっては医療単給(生活保護の医療扶助だけを給付して、路上から病院に通う)やってるし、緊急のときは救急車、金がなかつたら無料低額診療(低所得者などに医療機関が無料または低額な料金によって診療を行う事業。厚生労働省は、「低所得者」「要保護者」「ホームレス」「DV被害者」「人身取引被害者」などの生計困難者が無料低額診療の対象と説明している。東京都内では20カ所の医療機関で実施している)があるでしょ」ってわけです。

でも、無料低額診療所も診察

費は取らないけれど薬は有料なんです。

救急車は、救急病院に駆け込む必要がない人が使ってもらっては困る。だから、悪くなるまでみんな我慢して、ギリギリになつたら呼ぶんです。

でも、「短期だったら無料で診る、薬も出す」という無料診療部門のあるクリニックがあればみんな気軽に来ることができんです。「今日は風邪薬だけ出すから、困ったらまた来てね」と感じて。生活保護が必要な人はクリニックからファックス申請して、それからは医療扶助で来て貰えばいい。

「無料で診るとモラルが低下する」と言う人も居ます。でもね、炊き出し夜回りの医療相談でも薬を出しますが、みんな2〜3日分で有り難がってくれて、「1ヶ月分くれ」という人なんか居ないんです。モラルハザードにはならない。むしろ、本来に来て欲しい人が来ない。

いつオープンするんですか？

今年の4月1日の予定です。

診察は週3日、私が内科・森川

さんらが精神科を診ます。

これが始まったら医療相談も変わります。炊き出しの医療相談では市販薬しか出せません。だから例えば「血圧がかなり高いからあの処方薬がないと危ない。でも、ここでは出せないから救急車呼ぼう」というケースが出てきます。救急車呼んでも適切なケアができるとは限りません。でもこれからは「ゆうりんクリニック」に連れてきてもらって必要な処方薬を出し、ワーカーが泊まる場所を確保してお世話をし、週明けに生活保護を申請する、というふうに通切れないケアができます。

なるほど。ところで、ソーシャルワーカーの給料を確保するために医師の報酬を抑えると聞きましたが。

はい、私院長は無給です。他で稼ぎます。私以外の医者は勤務医になるので無給にする労働基準法違反ですから、一応給料は払いますが、最低限に抑えます。その医者がもらった給料を寄付するのは自由です(笑)。

なるほど、本気ですね。では、今後の展望は？

飲酒の問題一つをとっても、なぜ人は酒を飲むのかと考えると、明日、仕事でも何でも「やること」がある人は飲んでもあんまり無茶しないんです。でも、「やること」や役割を失うと無茶苦茶飲む。医者には「飲むな」と言うけど、酒を飲まなくても済む環境をつくるのがどんな薬よりも有効です。人が健康になるのに必要なのは、「その環境をつくる」「人がつながっている街をつくる」ことです。「医者がたくさんいる街」ではない。

5年後10年後を考えると、路上の方はだんだんと減って、高齢者・認知症にフォーカスを移していくことになる。森川さんは見越しています。それに備えて認知症ケアのできる人を育てていきます。

あと、ここでやりたいのは医療従事者の研修です。特に若い医者や看護師にとって最高の研修期間になります。病院や在宅やつるだけではわからないことがここで見えてきます。

もう一つ、当事者の方への情報提供をやります。今、夜回りでチラシ配ってるけど、みんなほかに読むモノがないから、結構読んでるんですよ。そこに「ゆるりんだよ」とか載せたい。「薬使わずに血圧下げる方法」「薬を飲まずに眠れるやり方」とか。チラシ一枚で健康にできることもあるんですよ。

なるほど、「夜回りチラシが命を守る」かもしれないですね。西岡さんも病院にいただけだったら、野宿の方の事情がわからなかった？

もちろん、全然わかりませんでしたよ。こいつ、酒なんか飲んで救急車で来やがって！とか昔は思っていました。ちゃんと制度があるはずなのに、何でこんなことを、と。ところがどっこい、既存の制度ではうまくいかない人がこんなについて、その隙間を縫って貧困ビジネスがこんなにはびこっている。ここに来れば、今の世界でどんなことが起きているのかが見えてきます。

最後に、読者にメッセージを。

うーん、どうしようかな。

野宿の人も  
家のある人も  
若者も  
年寄りも  
みな健康で  
幸せで  
ありますように！



世界の医療団ポスター  
右から二人目が西岡さん

# 追悼 ヤマキヨさん

もっとも愛すべき、困ったじいさん

ヤマキヨさんは、路上生活から脱して、TENOHASIの連携団体である「訪問看護センターKAZOC」が訪問看護してきたおじさんです。カゾックの名物オヤジだったので、残念ながらこの2月21日にガ

ンで亡くなりました。

一番濃厚に関わった訪問看護センターの元ワーカー(精神保健福祉士)のYさんにヤマキヨさんのことを聞きました。

ヤマキヨさんのことですか。だつたらヤマキヨさんがよくいつていた池袋駅のカフェBECKER、Sで話しましょう。

出身は北関東だったそうです。十代で上京して、内装屋・ラーメン屋・花屋とかいろいろの仕事を経験しました。

その間にいろいろあったそうです。外国人にだまされて偽装結婚したり、戸籍売ったりして。

山下清と言う名前も調べたら偽名でした。

ヤマキヨさんが路上生活だった頃のことは知らないんです。多分、夜回りか炊き出しでTENOHASIの生活相談につながったんでしょうね。

僕が訪問看護に行くようになったときは、ふぁみりあ(連携団体「べてぶくろ」が運営するグループホーム)にいました。ただどすごいさみしがりで、自分の部屋があるのに、ちっとも居ない。あつちをふらふら、こつちをふらふら。路上のおぼちゃんにお金あげたり、おじさんにおごったりして、話し相手になる友達をさがすんです。

話し相手が見つかるベツクス・サンマルク・ジヨナサンなんかで延々とおしゃべり。僕もよくおしゃべりしました。それで、しゃべり疲れると、座ったまま寝オチしちゃうんです。あんな寂しがりはいませんよ。

変わった人ですね。何か障がいがあったんでしょうか。

発達障がいバリバリ、ものすごいADHDですね。

めちゃくちゃな生活しているから外で体調を崩して、倒れちゃあ救急車を呼ぶ。迷惑オヤジですよ。よくあれで昔は社会生活が営めてたなと思います。

時間が守れないことでも横綱級です。とにかく注意があちこちにそれて、道草ばかり。店をのぞいたり座っているおじさんに話しかけたりして、池袋から上野まで普通歩いて一時間半なのにヤマキヨさんは三時間かかる。本気で約束の場所に来させたいなら10分おきに携帯に電話するしかないんです。

週一で訪問看護に行っていたんですが、約束の時間に行っても100%居ない。電話すると「いま友達と一緒だから」「早く帰ってきて下さい」「わかった」。でも、いくら待っても帰ってこ

ない。

携帯はプリペイドを使ってました。寂しがりだからか、普通の契約だったら莫大な金額になるので、だからプリペイド。もちろん、何回もなくなりましたよ。

よく、そんなめちゃくちゃな人に関わってこられましたね。

でも、ヤマキヨさんってすごく愛嬌のある人で、そこは最強でした。僕はヤマキヨさんがすごい好きなんです。

もちろん、怒りましたよ。「なんで居ないの！」って、むちゃくちゃに。一番手間のかかる人ですよ。探し回ってやっと見つかる。「腹減ったから飯食いたい」。それで一緒に作って食べて、帰ろうとすると「もうちょっと一緒にいてくれよ」。すごく人間くさい人で憎めないんです。

小さいときに、お母さんが自

殺して、その現場を見たそうです。その体験が不安感Ⅱ寂しがりの原因だったのかもしれない。

それと、てんかん持ちで、今まで何回も倒れています。死の恐怖が身近にあって、それも寂しがり強めていたんでしよう。他のことはどんなに忘れても、てんかんの薬だけは必ず飲んでいました。

Yさんは許せたとしても他のスタッフにとってはどうだったんですか？

訪問する看護師にとっては最悪の利用者でした。文句が多いんです。あそこの電球が切れてる、とか、庭の草がボーボーで汚いとか・・・文句多いくせに約束は破る。約束の時間に行っても居ない。怒られると言いつけるけど、その言い訳が訳がわからない。「行こうと思っただけど友達に会って、あれがこうで・・・」混乱して事実と違うことを言っちゃう。

金ないくせにおごりたがる。知らない人にもおごろうとしたり、部屋に泊めたり。多分、そういう方法でしか人とつながれ

なかつたんだと思いますね。

お兄さん夫婦が生きていた頃は面倒を見てくれたようですが、亡くなってからは親族とは音信不通でした。今回は親族に連絡がとれたんでしょうか。ヤマキヨさんはずっと気にかけていました。

「ふぁみりあ」からアパートに移ったのは一昨年の初夏でした。部屋はすごく気に入っていました。だからアパートで落ち着けるように、DVDや自炊の道具をそろえたんですが、やっぱりダメでした。アパートに1人でいるとさみしさが募って、外に出ちゃう。考えるよりも衝動的に動くんです。お金が入ればみんな使っちゃう。だから生活保護費の支給日には一緒に訪ってお金を預かり、週1回の訪問看護の時に渡すようにしていました。行っても居ないんですけどね。

外では、いつもクソ重いリュックを背負ってました。中には薬・新聞・雑誌、それとなぜか大人のおもちゃとか(笑)。何でそんなもの持ってたんですかね。ちよつと猥雑なところもありました。

去年の11月、体調を崩して

入院したら、末期ガンでした。大腸・肝臓・泌尿器とガンが見つかって。

お腹が弱くて、お腹のことはずっと大事にしていたんです。冷たいものを飲むとすぐお腹壊すから、真夏でも飲み物はホット限定でした。なのにガンになっちゃった。

そういえば、食べ物にもこだわりがあって、「牛肉は国産に限る」とか言っていましたよ。そのくせ、僕が安い弁当を買ってきても喜んで食べるんですけどね。

愛すべき困ったじいさん。どうしようもなく人間くさくて、ダメなジジイ。でも悪い人じゃないんです。

いっぺん、路上でさみしそうに座っているとそこに行くわしたことがあります。知らない人と仲良くなつて飲み屋でさんざん飲んで、ところがトイレに行っている間に相手が消えちゃって、ヤマキヨさん金が無くって払えないから無銭飲食で捕まったんだそうです。ただし、これには単純に「だまされた」という説と、「ヤマキヨさんトイレがすごく長いんで、相手が『逃げ

られた』と思って自分も逃げた」という自爆説の両方あります。

頭にくることはたくさん。でも・・・全てに本気で悪気がないんです。生きづらさがむき出しで。

さみしい、死ぬのが怖い、汚いのがイヤ。気になったらとんとんにしちゃう。たまにしか風呂に入らないくせに、入ったら一時間、股間を洗い続けたり。

でも感謝できる人でした。ありがとうが言えるんです。本人のやるなすことデタラメだったけど、悪い人とは思えなかった。

亡くなる一ヶ月前、会いに行きました。しばらく話して帰ろうとしたんですが、ヤマキヨさん別れるのがイヤなんです。「もうちよつと居てくれよ。死にたくねえよ。オレ、死ぬのかな」。泣きながら手を握って、もともとガリガリなのにますますガリガリになって「オレ、死にたくないんだよ」って。

でも、本当のことなんて言えないじゃないですか。「死ぬかどうかなんてわかりません。また来月来ますよ」といって別れ

ました。

2月に行ったときは、ずっと寝ていて話はできませんでした。そして、その二日後にお亡くなりになりました。

ご遺体を引き取る人もみつからなかったのです。次の土曜日にお葬式なしで江古田斎場で荼毘に付されました。

私は斎場に行って拝んできたんですが、死に顔がひどかったんです。目も口も開いていて

でも、思ったんです。あの寂しがりや、痛いとか苦しいとか言わないで、看護師も気がつかないくらい静かに安らかに亡くなったんだらうな、って。病院だけど、人の居るところでさみしくなく死ねたのかなと

山下清さん、よくがんばりました。おつかれさん。ベッドで死ねてよかったですね。

あのじいさんには出来過ぎた死に方です。

私も、亡くなる1週間前にヤ

マキヨさんに話を聞きに伺いました。そのときはもう話すのが難しくなっていてほとんどインタビューにならなかったのですが、私が帰ろうとするとき明らかに落胆した顔をして「もうちょっと居てくれ」とおっしゃりました。「次また元気になったらまたインタビューに来ますから」といって別れましたが、「次」は来ませんでした。

でも、この会報を読んで下さった皆さんが少しでもヤマキヨさんのことを憶えてくれれば、ヤマキヨさんきつと天国で喜んでくれるでしょう。

天国で、たくさんの友達に囲まれて楽しく過ごしていますように。

清野賢司



by GEOFF READ

# 「てのはしと共に歩む」



古賀公一牧師

## 目白ヶ丘教会 ホームレス支援有志の会

目白ヶ丘教会のホームレス支援有志の会が「てのはし」の活動にボランティアとして参加するようになったのは2009年4月のことでした。「てのはし」理事の坂内孝雄さんが日曜日の礼拝に出席されるようになったことがきっかけでした。貧困問題について関心を示していた教会員6名がお話を伺って、炊き出しに参加したのが始まりでした。

ボランティアが始まって数か月後、古賀公一牧師は目白ヶ丘教会の近所に、路上生活の方が身を横たえておられる場面に遭遇します。

最初は食事や毛布を運びました。「病院か区役所へ行きましょう」とお声をかけましたが、「足が痛いので今は動けない。直ぐに治るので大丈夫」との返答です。当時それ以上の対応をすることは出来ませんでした。坂内さんに相談したところ、医師を同行した後、救急車を呼び直ぐに入院の手続きを取って下さいました。実はその方は脑梗塞のため動けなかったのです。1〜2日手当てが遅れていれば亡くなられていたそうです。こ

うして「てのはし」の活動の重さを知らされました。

聖書を開くと、一番初めは創世記という書があります。1章26〜27節には何度も、神様は御自分にかたどって人間を創造されたことが記述されています。人間を創造された神様は、すべてを御覧になって「それは極めて良かった」とおっしゃいます。すべての人間は神様に造られて、神様に似たかけがえない存在なのです。神様の独り子イエス・キリストの生涯はどうだったでしょうか。ご自身から進んで、この世で苦悩し、困窮し、病に苦しむ者の友となられました。いかなる人間も父なる神様に唯一の存在として、神様に似た者として創造されたことを熟知しておられました。もちろん私達はキリストになることは出来ません。力や能力に限界を持つ小さな者です。しかしキリストを、神様を崇める者として、生活困窮者を見て見ぬふりをするのは出来ないと感じています。微力ながらも「てのはし」に協力することで、キリストの歩みをわずかでも做うことが出来ると思います。

キリスト者は信仰生活をしない方々に比べると多忙です。何故なら日曜日午前中には必ず礼拝に与ります。自ら献金を捧げ、教会運営のために様々な奉仕を担います。時間も神様に捧げます。そのような者の集まりですが、生活困窮者をわずかでも支えたいと思ったのです。こうして教会の有志が集まり、「てのはし」のボランティアとして活動するようになりました。

出来ることはささやかです。可能な者が水曜日夜9時半からのおにぎり配りに参加します。土曜日の炊き出しは日曜日の礼拝準備と重なるため、あまり参加できません。その他に出来ることを考えました。年末年始の越冬であれば炊き出しボランティアに参加できます。多額は無理ですが些少の募金を教会内で集めます。古着や使用しない日用品を集めることが出来ます。わずかな捧げ物ですが、多数の教会員が協力すれば大きなものになります。そのうちに付属幼稚園の保護者も協力してくれるようになりました。

路上でお亡くなりになった方がたは区役所でお骨にしてください。葬式はしてくれませんが、ある時、スタッフの中村あずささんから「夏祭りの時に慰霊祭をお願いできないでしょうか」と相談がありました。ボランティアにキリスト者が多いので牧師である古賀に白羽の矢が立ちました。ですが「当事者の方々は多くが仏教徒なので、仏式と合同で出来ないでしょうか」との依頼でした。日蓮宗のお坊さんと話し合った結果、2011年の夏祭りからキリスト教式・仏式合同の慰霊祭が始まりました。

ボランティアを7、8年続ける内に気付かされたことがあります。私は路上生活の方々に少しばかり励まし支えているのかもしれない。しかし実は逆です。路上生活の方々に、私達がこの世で生きる勇気を与えて頂いています。わずかなおにぎりをお配りする者に対しても、受け取られた方がたは心から「ありがとう」とねぎらいの言葉をかけて下さいます。

## 感謝状

古賀公一牧師様

この度、古賀牧師様ご退任の報に接し、今までのご支援に感謝して御手紙を差し上げます。

私の記憶では「目白が丘教会ホームレス支援有志の会」の皆さんのご支援が始まったのはリーマンショック後に路上生活者が急増した2009年でした。

それ以来、一月も欠かさずに資金の寄付を頂き、TENOHASIの財政を支えて下さりました。また、皆さんから衣類雑貨のご寄付もいただきました。さらに古賀先生をはじめとする教会のみなさまが夜回りに参加して下さい、夜回りのコアスタッフが足りない時期にとっても助かりました。さらには毎回コンビニでコピーしていた夜回りチラシの印刷を、格安で引き受けて下さりました。どれほど助かったかわかりません。

これほど長期にわたって継続的・献身的に支援して下さいる団体はほかにはほとんどありません。これも教会の皆さまの熱意と、古賀先生の強い意志の賜物であると思います。

そして何よりも、心打たれたのは古賀先生のお人柄です。いろいろお願いしたり、約束を果たせなくてご迷惑をおかけしたことが再三再四あったのですがいつも温かい笑顔で受け入れて下さいました。

たいしたことなど何もできていない私どもですが、古賀先生からのメールの末尾には、どんなときにも「ご奉仕に感謝しつつ」の文字がありました。

私はクリスチャンではありませんが、「善きサマリア人のたとえ」が好きです。

生活困窮と排除に苦しんでいる人々に寄り添う「隣人」であろうとする古賀先生のお姿にいつも励まされました。

この度御退任されることはとても残念なことです。できたらもう少し、せめて池袋の夜回りで出会う路上生活者が50人を切るまでは・・・と願わずにはられません。しかし、古賀先生のご決断ですから、仕方ありません。

古賀先生、今まで本当にありがとうございました。

これからのますますのご活躍をお祈り申し上げます。

2016年3月16日

特定非営利活動法人TENOHASI 代表理事 清野賢司

## はっぴいめーかー大募集

### □TENOHASIの活動

- 炊き出し 毎月第2/第4土曜日 東池袋中央公園
- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| 鍼灸・マッサージ            | 16:00～18:00 |
| 衣類配布                | 16:30～17:00 |
| 医療相談 生活相談           | 17:00～18:00 |
| ほっと友の会（お茶会・第4土曜日のみ） | 17:00～18:00 |
| 配食                  | 18:00～18:30 |
- おにぎりと夜回り 毎週水曜日
- |               |        |        |
|---------------|--------|--------|
| おにぎり配布と医療生活相談 | 21:30～ | 池袋駅前公園 |
| 夜回りと医療生活相談    | 21:45～ | 池袋駅と周辺 |
- ハウジングファースト東京プロジェクト 路上脱出と安定した地域生活への移行支援  
参加団体：世界の医療団・べてぶくろ・訪問看護センターkazoc  
東京つくろいファンド・SWOC/ゆうりんクリニック

### □活動資金のカンパをおねがいします！！

郵便振替 00190-8-259686 特定非営利活動法人TENOHASI  
振込 ゆうちょ銀行 019(せうけい)支店 当座 259686 トクヒ) テノハシ

### □物資カンパも大募集中！！

衣類（いまは春物募集。スーツと女性ものは不要）・靴・毛布・カミソリなど  
食材（缶詰・レトルト食品など。米は募集停止中）  
【送り先】〒177-0045 練馬区石神井台6-1-28 清野賢司 TEL090-1611-1970

### 寄付・ボランティアのお問い合わせ

メール：TENOHASIのホームページの「お問い合わせ」から  
電話：090-1611-1970（事務局長 清野賢司 平日は18時以降）

特定非営利活動法人TENOHASI  
会報第33号  
2016/4/1発行

□ホームページ <http://tenohasi.org/>  
□メール [tenohasi@yahoo.co.jp](mailto:tenohasi@yahoo.co.jp)

発送元

NPO法人TENOHASI事務局  
TEL 090-1611-1970  
（事務局長 清野賢司）



